

会 議 録

会議録	令和7年度 第1回豊田市公共交通会議	
次 第	1 開 会 2 あいさつ 3 令和7年度豊田市公共交通会議委員について 4 豊田市公共交通会議について 5 議 事 【協議案件】 (1) 豊田市公共交通会議の令和7年度事業計画（案）及び予算（案）について (2) 地域公共交通確保維持改善事業について 【報告案件】 (1) 令和6年度バス利用状況等について (2) 敷島自治区（旭地区）における支え合い交通の検討について (3) (次期) 豊田市地域公共交通計画策定に向けた進捗状況について 6 連絡事項 7 閉会	
日 時	令和7年6月18日（水） 午後3時30分～午後5時	
場 所	豊田市役所 南庁舎5階 南51会議室	
出席者 (敬称略)	【委 員】 松本 幸正 （名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授）【副会長】 山岡 俊一 （豊田工業高等専門学校環境都市工学科教授） 後藤 哲也 （社会福祉法人豊田市社会福祉協議会常務理事） 三宅 利幸 （豊田市区長会理事） 釘宮 順子 （豊田市ボランティア連絡協議会会長） 高井 勇輔 （名古屋鉄道株式会社地域連携部交通サービス担当課長） (代理 上野) 後藤 泰之 （名鉄バス株式会社首席交通企画官兼運輸本部地域交通部地域交通課長） 横田 太 （豊栄交通株式会社専務取締役） 寺澤 秀樹 （愛知環状鉄道株式会社運輸部次長兼企画管理課長）(代理 藏地) 小林 裕之 （公益社団法人愛知県バス協会専務理事）(代理 徳田) 中村 雄太 （愛知県交通運輸産業労働組合協議会幹事） 原田光一郎 （国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官） (代理 山田) 石屋 義道 （愛知県都市・交通局交通対策課担当課長）(代理 伊藤) 加藤 正治 （愛知県豊田加茂建設事務所維持管理課長） 松岡 孝嗣 （愛知県豊田加茂建設事務所足助支所管理課長） 岡本 重之 （愛知県警察豊田警察署交通課長）(代理 平野) 鈴木 学 （豊田市副市長）【会長】 加藤 昭男 （豊田市都市整備部長） 【欠 席】 勝野 隆 （豊田市高齢者クラブ連合会副会長） 山岡 正博 （豊田商工会議所専務理事） 小島 康史 （愛知県タクシー協会豊田支部長） 堀 裕樹 （国土交通省中部地方整備局名古屋国道事務所計画課長） 中村 浩二 （愛知県警察足助警察署交通課長） 【事務局】 豊田市 都市整備部 交通政策課 株式会社三河の山里コミュニティパワー	
資 料	1 次第 2 令和7年度 第1回豊田市公共交通会議 会議資料	

【協議案件】

(1) 豊田市公共交通会議の令和7年度事業計画(案)及び予算(案)について

- 事務局 【協議1】に基づき説明。
- 委員 今後この会議の役割が大きくなると思っている。委員にどんな役割を期待しているか。
- 事務局 各団体の代表として、それぞれの立場で意見・要望等を発言していただきたい。そしてその意見・要望等に対して、この公共交通会議の場で、交通全般を活用して解決できることがあるかを協議していきたい。
- 議長 大変重要な視点をご指摘いただいた。単に補助金の交付の流れが変わっただけではなく、事業の利用促進に関して、我々が責任を持って関与していく必要がある。ちなみに、補助金の流れが変わった意図は何か。
- 委員 補助金と協議体での議論を切り離して考えるのではなく一体として認識し、協議体の中で議論をしながら効率的な補助金執行をしてほしいという意図がある。
- 委員 令和7年度予算案の歳出について、市の負担金のほとんどが公共交通マップ印刷費になっているが、この予算内で必要部数を作成できるのか。過去の作成部数はどれほどか。また、バスマップに記載しているQRコードからアンケートで市民の意見を収集するということだが、様々な年代・属性から広く意見を集めるには、QRコードだけでは難しいと思う。他の収集方法は考えているか。
- 事務局 バスマップの昨年度の発行部数は1万部であり、記載の予算内で作成できる。意見収集については他の方法も検討したい。
- 議長 豊田市には以前、時刻表が載った冊子型の案内もあったかと思う。運行ダイヤはスマートフォンで検索できるため、若者向けには不要かもしれない。一方で、スマートフォンを持っていない方や来訪者には、目で見えて分かる媒体のものを作っておくと良い。すべての情報をバスマップで得るといって時代ではなくなっている、その点を踏まえてみんなで検討していきたい。
- 委員 利用促進に関しては、観光振興を担うツーリズムとよたとの連携を検討できると良い。
- 議長 観光地への公共交通機関によるアクセスについて知ってもらうことは重要であるため、今後連携をお願いしたい。
- 委員 バスマップに関して、QRコードのみの情報提供では高齢者が利用できず、交流機会の喪失につながりかねないため、配慮のある設計をしてほしい。また、豊田市駅前の工事について、改修は問題なく進んでいるのか。バスの乗り場が分からず困っている人はいるか。
- 事務局 バスマップについて、紙面の制約もある以上、情報量とのバランスにも配慮が必要だが、改善点があればお聞かせいただきたい。豊田市駅周辺の工事に伴う仮設バス乗り場については、乗り場変更があった今年4月に、一定期間、市や運行事業者がバス停に立って誘導をし、その後大きな混乱・トラブルは聞いていない。
- 委員 豊田市駅前の工事により毎年バス乗り場が変わっているため、来訪者や利用頻度が低い人は不安だと思う。工事により状況が変わることはバスマップにも小さく書かれているが、今後どう変わるのか、完成形はどうなるのか、という情報を出せると良い。また、バスの最終便の情報を載せるのもいいが、それよりも乗降場の案内を大きくした方が良いと思う。その他、バスで行ける観光地等を載せているが情報量が少ないため、お出かけのきっかけづくりになるような工夫をしてほしい。
- 事務局 今後は市民の声を反映し、魅力的なマップ作成を目指す。バス乗り場については、今年度で工事が終わる来年度には完成予定。新しいバス停には、分かりやすいサイン表示を検討している。
- 議長 バス乗り場についてはまだ流動的なので、印刷物に詳細を載せるのは難しいかもしれない。完成形の詳細を載せるという方向で検討を進めつつ、現状の案内に関しては、現地で分かりやすいようにしていただければと思う。他市のバスマップも参考に、目的地の掲載方法も検討してほしい。

<協議結果：全員承認>

(2) 地域公共交通確保維持改善事業について

- 事務局 【協議2】に基づき説明。
- 委員 地域間幹線系統は基本的に愛知県の公共交通会議の中で議論をするので、県の計画に

紐付く岡崎・足助線、大沼線、矢並線は計画資料には入っていないという認識で良いか。その上で、大沼線は豊田市の計画該当路線ではないにもかかわらず、二次評価の説明で触れているので、混乱しないよう補足を追記してほしい。また、大沼線は高校生バス通学定期券補助の対象だということだが、岡崎・足助線など他の路線については対象にならないのか。

○事務局 委員の認識のとおり、大沼線は愛知県地域公共交通計画に位置付けられている。豊田市の地域公共交通計画に位置付けられた路線との違いが明確になるよう表現を改める。高校生バス通学定期券補助については、名鉄バスでも市内運行区間は対象にしている。名鉄バスは市内だけでなく市をまたぐ路線もあるが、その路線も補助対象ということではよろしいか。

○事務局 豊田市内の区間については、市をまたぐ路線であっても補助の対象としている。
○議長 地域間幹線系統補助は複数市町村をまたぐ路線が対象。ただこの複数市町村というのは、合併前の市町村単位で考えるため、現在の豊田市内で完結している路線でも地域間幹線系統に該当するものがある。さらに、地域間幹線系統補助の中には、県が計画申請するものと、豊田市で計画申請するものの2種類ある。今回この場で協議するのは、豊田市で計画申請する分のみである。一方で、県が計画申請する路線としては、豊田市内では大沼線、岡崎・足助線及び矢並線があり、沿線市として利用状況を把握しておく必要がある。2年連続で1日当たりの輸送量が15人を下回ると補助対象から外れてしまうため、国からの二次評価を反映できているかなどの視点で、今一度確認していただければと思う。

○委員 高校生バス通学定期券補助の話が出たが、名鉄バスの4・5月の検証では、通学定期券の購入者が2割ほど増えている。まだ2か月しか経過していないので、今後も検証しながら動向を見ていきたい。

○議長 最近文部科学省からも熱中症対策で、通学に公共交通の利用を勧める旨の通達があった。そういう面でも公共交通で通学してもらえれば安心につながる。ぜひ今後もデータ収集をして、その効果を測ってほしい。

<協議結果：全員承認>

○議長 愛知運輸支局との最終調整による微修正は、事務局に一任する。

【報告案件】

(1) 令和6年度バス利用状況等について

○事務局 【報告1】に基づき説明。

○議長 土橋・豊田東環状線の通勤需要がそこまで回復していないものの、それ以上に他の路線の利用者が増えてきており、全体としてはほぼコロナ前まで利用者数が回復しているため非常にいい傾向と言える。一方で地域バス・地域タクシーは伸び悩んできている。

○事務局 地域バス・地域タクシーの利用者数を維持していくため、地域一体となった取り組みや地域住民の意識の醸成を、行政として進める必要があると認識している。

○議長 日本全体では、生産年齢人口が減っていることに伴い通勤需要も減ってきている。在宅勤務などの影響もあり、幹線系統は伸び悩んでいる状況である。一方で高齢化が進むので、地域の中を移動する需要は増えてくる傾向にある。豊田市は、現状逆の傾向にあるので、幹線系統はこのまま伸ばしつつ、地域の方をもっと利用してもらえようという手立てが必要である。お出かけ目的を創出することをやっていくと良い。

○委員 地域バスの対象エリアについて、人口推移の傾向は把握しているか。

○事務局 コロナ前の令和元年度と令和6年度で人口を比べると、豊田市全体では97%、中山間地域では85%に減少している。中山間地域の方が人口減少率が高くなっているということ把握した上で、対策を検討していく必要があると考える。

○委員 上郷地域バスについて利用者数が減少しているのはなぜか。また、高齢者や地域のニーズはどう把握していくのか。

○事務局 上郷地域バスは令和3年10月に、定時定路線からデマンド運行に切り替えている。以前の定時定路線と比べると、週4日運行から週2日運行に変更したため、トータルの利用者数は減少したが、運行日数を踏まえれば利用者数は維持しているといえる。高齢者や地域の方の声をどう把握するかということについては、地域バスごとに運営協議会があり、そこに地域の代表の方に参加していただいている。代表の方は、自分の周りの困っている方などから意見を聞き取り、協議会の場で伝えていくという仕組みになっている。

○委員 運営協議会はどこも活発か。

- 事務局 地域バスに関する要望や改善が発言される中で、運行形態を定時定路線からデマンド運行に変更するという改編につながるなど、活発な意見がある会議になっている。
- 委員 藤岡・豊田線の利用者数について、従来は加納経由に比べて西中山経由の方が多かったが、令和6年度に逆転した理由は何か。また、土橋・豊田東環状線の利用者数が回復しないことについてはどう考えるか。
- 事務局 小原・豊田線と藤岡・豊田線（西中山経由）は路線が重複しており、令和6年4月1日実施のダイヤ改正の影響により、藤岡・豊田線（西中山経由）の利用者が小原・豊田線に移行した可能性もある。土橋・豊田東環状線についての今後の施策としては、高齢者のおでかけの目的を作っていくことや、子育て世帯への施策などを重ねていくことで、需要を回復させていきたい。
- 議長 長期的には通勤人口は減っていく流れのため、昔のような通勤ラッシュ時間帯の需要をねらうより、オフピーク時間帯の需要をいかに引き出すかが重要。高齢者や子育て世帯はオフピーク時間帯の利用を狙えるので、その施策を考えていくと良い。
- 議長 高校生バス通学定期券補助について、先ほど委員から購入者が2割ほど増えたという発言があったが、どう増えたのかを調べたい。例えば、家族が送迎を止めてバスを使うようになったなど、税金を投じた効果を検証できると良いが、そこを調査する予定はあるか。
- 事務局 今年度中に調査をする予定。
- 議長 交通事業者からの報告はないか。せっくなので年1回報告いただくと良い。来年度また検討してほしい。

（２）敷島自治区（旭地区）における支え合い交通の検討について

- 事務局 【報告2】に基づき説明。
- 委員 自家用有償運送を申請する際、運転手はドライバー講習を受けた方を選任する必要がある。ドライバー講習は、自動車学校等で毎週行っているような講習ではなく、早めに予約しないとすぐに枠が埋まってしまう。予定していた時期までに講習が受けられないという話も聞くので、予定時期から逆算して早めに予約を取り、実施に間に合うようにしてほしい。
- 委員 利用者は何人くらいを見込んでいるか。
- 事務局 現在たすけあいカーを利用しているのは5人ほどである。ただ、今後利用対象者が増えていくことが見込まれるので、20～30人くらいを想定している。
- 議長 たすけあいカーのドライバーは現状何人か。その人たちは講習を受けたか。
- 事務局 ドライバー登録者は9人である。あくまでも現状は無償運送の範囲内のため、講習は受けていない。
- 議長 もし事故等があった場合はどうするのか。
- 事務局 ボランティア保険で対応する。ただし、車両保険には入っていない。しきしまの家は、その点も含めてただのマッチングではなく、乗る方に対して安心を提供していくために制度をアップデートしたいという思いがあり、今回の実証の話になった。
- 委員 利用者の登録要件について、一人暮らしや昼間独居の高齢者でも、自分で移動できる方は利用できないとするなど、詳細な要件はどのように考えているか。
- 事務局 一人暮らし又は昼間独居の高齢者という要件をさらに絞ることは考えていない。利用者条件は細かく設定せず、実情に合わせていきたい。
- 委員 バスなどの公共交通には乗れるが、こちらの制度の方が良いから利用する、という人が出てこないかを心配している。引き続き検討してほしい。
- 議長 運賃で差別化されているので、役割分担はできていると思う。既存の交通事業者との競合についても問題なさそうだが、交通事業者側から意見はあるか。
- 委員 運行管理者として地元交通事業者も関わっているので、安全面や役割分担の調整はできると思う。
- 委員 一人暮らしの友人同士などで相乗りする利用方法は可能か。またその場合、利用料金はどうなるか。
- 事務局 まだ詳細は決めていないが、基本的には1回当たりの料金として考えているので、複数人で乗ったとしても料金は同じと考えている。
- 議長 一人暮らしに絞った理由は何か。
- 事務局 高齢者の夫婦の場合、どちらかが移動困難でも、もう片方の方が送迎できていること

- が多く、一人暮らしや昼間独居の状態になって初めて困る事例が多い印象があり、この要件にした。
- 議 長 現状の対応としてはそうかもしれないが、やむを得ず送迎をしていて、他に手段があるなら止めたいと思っている可能性もある。今後の高齢化の進行を考えればそういった利用は十分見込まれるので、ゆくゆくは一人暮らしの要件は外しても良いのではないか。本日出た意見を参考に、詳細を詰めてほしい。

(3) (次期) 豊田市地域公共交通計画策定に向けた進捗状況について

- 事務局 【報告3】に基づき説明。
- 委 員 高齢者の介護予防の視点からも外出機会の確保は重要である。移動支援の部分をしっかり計画に盛り込んでいただきたい。
- 議 長 高齢者のお出かけ促進、高齢者や障がい者等への移動支援、というのが重点事業として位置付けられている。
- 委 員 足助地区でも、先ほどの旭地区に似た取り組みをMYパワーが検討してくれている。今後の共助交通に非常に興味がある。
- 議 長 現計画の中で共助交通は重点事業として位置付けられていたが、次期計画では重点事業としないのか。
- 事務局 重点事業①～④には書いていないが、事業群の中では重点事業として位置付けている。
- 議 長 今後山村部等の高齢者の移動手段として、共助交通の需要はますます高まることが考えられるため、重点事業として別出した方が良い。
- 事務局 検討する。
- 委 員 高齢化の進行に伴い、都市部でも移動に関する不安の声をよく耳にする。安心して住み続けられる豊田市にするために、どうしていけばよいかを考えてほしい。
- 事務局 まずは公共交通があることを知らない方や乗ったことがない方に、乗ってみたい、乗ろうと思ってもらえるような施策を考えつつ、将来自分が運転できなくなってから初めて公共交通を利用するのではなく、今の段階から乗ってみようと思える環境を作っていくことが大事かと思う。利用促進とセットで考えていきたい。
- 議 長 施策の中の、公共交通を支えるマインド醸成に関連する話だが、支えるというよりも自らが使う、という表現の方が適しているように思う。
- 委 員 10年間の計画なので、豊田市として先進技術の利活用は上位に位置付けてほしい。運行事業者への支援や新たな担い手活用は、今まさに取り組むべき課題なので重点事業になっていると思うが、先進技術がその課題解決のための支援にもなると思うので、この点をもう少しアピールしたい。
- 事務局 自動運転や水素など、先進技術は伸ばしていくべき事業ではあるが、市主導でコントロールできない部分が多々あることから、不確定要素も加味して、のばす事業という位置付けにした。
- 議 長 公共交通の担い手確保とは、ドライバーだけがればいいわけではない。自動運転が進歩して交通事業として成り立つことや、住民共助と連携して担い手が少なくても上手く回る可能性もある。そういった点も踏まえて、前向きに検討してもらえればと思う。
- 議 長 他にも意見があれば今月中を目途に事務局に伝えてほしい。私からも最後に2点発言させていただく。1点目は、これから確実に増える外国人に対して、どう対応していくかが今の内容だと見えてこない。2点目は、観光に関する内容について、もう少しきらりと光るものがあると良い。

以上